

8・15が終わったばかりなのに来年の8・15のことを考えよう。終戦70年の節目を日本は政治・外交的にどう迎えるのか。いまからじっくり取り組みを考えるべきではないか、と。

来年、「終戦70年」は世界の一大テーマである。各地で大戦の記憶が掘り起こされ、祝典、慰霊、追悼などのイベントが相次ぐだろう。その盛り上がりの中で日本はどうするか。中韓との歴史問題が国際問題化してしまった今日、



金言 kin-gon 西川 恵

日本は頭を低くして通り過ぎるのを待つ姿勢ではすまないだろう。日本の明確なメッセージを発する、そんな取り組みが必要と思われる。

その一つとして私の念頭にあるのは、元共同通信ワシントン支局長の松尾文夫氏が提唱している、米大統領と日本の首相による広島平和記念公園と真珠湾アリゾナ記念館の相互献花である。アリゾナ記念館の下には日本軍の攻撃を受けた戦艦アリゾナが沈んでおり、記念館は死亡した乗組員1102人を追悼する。

日米首脳相互献花

日米開戦の象徴でもある同記念館と原爆投下地で、両国指導者が相互に献花しようとの提案だ。松尾氏は「不幸な戦争の記憶にケジメを付け、歴史和解を最終確認するため儀式」と述べるが、実現すれば国際社会に向けた極めて強いメッセージとなる。

日米関係70年は敵同士だった者が和解するといかに素晴らしい関係を築けるかの手本であり、両国はこれからも世界の平和のために協働していく——とのメッセージだ。

大使レベルでは相互献花は

既に行われている。駐米日本大使は任期中に1度はアリゾナ記念館を訪れて献花し、「日本大使」と記帳している。広島平和記念式典は2010年8月にルース駐日大使が初めて出席して以来、毎年誰かが出席する。今年ケネディ大使が参列した。あとは両国指導者を待つだけなのだ。

元駐米大使の栗山尚一氏(アジア調査会会長)も大使時代(1992〜95年)、夫人とアリゾナ記念館で献花した。

「松尾さんの提案には賛成です。ただし日本側が主導権

をとって先に行くべきだと思います」。米国では依然として原爆投下を正当とする在郷軍人会や共和党右派が大統領の広島訪問に反対している。日本の先行献花でこうした反対は収まると見る。

もう一点ある。「謝罪はもう日米間ではすんだ話です。相互献花は一緒に平和を祈り、手を携えて歩いていくという前を向いたものにするべきです」。終戦70年という取り組みか、日本外交の構想力が問われる。(客員編集委員)